

2013年2月26日

各位

積水ハウス株式会社  
代表取締役社長：阿部 俊則  
本社：大阪市北区大淀中1-1-88

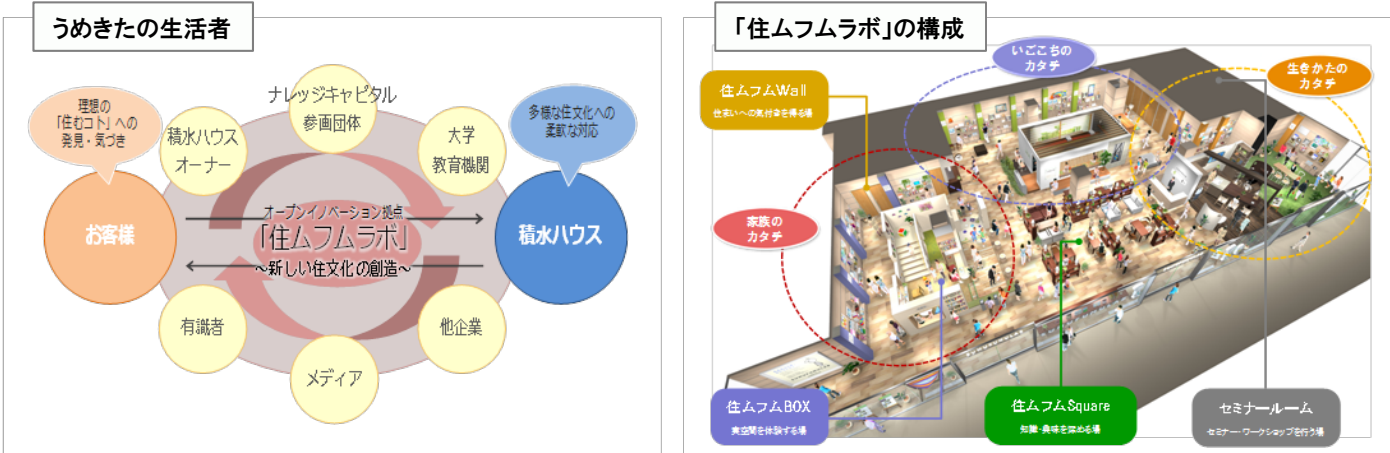
\*\*\*\*\*

## 共創で新たな住文化を創造 感性を磨き、私らしさを発見できる情報発信・研究開発拠点 積水ハウス「SUMUFUMULAB(住ムフムラボ)」開設

\*\*\*\*\*

積水ハウス株式会社は、2013年4月26日(金)にグランドオープンするグランフロント大阪の中核施設「ナレッジキャピタル」内の「フューチャーライフショールーム (FLS)」において、様々なステークホルダーと共創し、新たな住文化を創造する業界初のオープンイノベーション拠点「SUMUFUMULAB (住ムフムラボ)」を開設いたします。

「住ムフムラボ」は「生きるコトを、住むコトに。」をテーマに、人生を豊かにするために「住む」時間をより大切に感じていただきながら、新たな暮らし方を共創していく全く新しい場です。あらゆる世代や価値観の方々が集う“うめきた”で、積水ハウスと「生活者(お客様)」をはじめとするステークホルダーが「感性を磨き」「私らしさを発見」できる情報発信拠点として、また、これらの方々との「共創」による研究開発拠点として、これからの暮らしを発見していくための仕掛けを盛り込んでいます。



「住ムフムラボ」は、大きく「家族のカタチ」「いごちのカタチ」「生きかたのカタチ」の3つのゾーンで構成されています。各ゾーンには実物大の住空間を体験していただく「住ムフムBOX」、テーマ別(全15テーマ)で住まいへの気付きを得る場「住ムフムWall」、そして、カフェのような空間でゆっくりくつろぎながら知識・興味を深める場「住ムフムSquare」やセミナールームを備え、社会的背景から最先端の技術までを学びながら、“自分らしさ”を発見していただくことができます。

さらに暗闇で五感が研ぎ澄まされ、普段とは異なる“気付き”が得られる「ダイアログ・イン・ザ・ダーク (DID) ※」との共創プログラム「対話のある家」も設置。日本でも約10万人以上が体験したDIDにより、研究・研修に活かしていくとともに、来館者が五感を再認識していただけるプログラムも準備する予定です。

積水ハウスは、「住ムフムラボ」を舞台に様々なステークホルダーとの共創によって、新たな住文化を創造していくと同時に、先進技術で快適で豊かな暮らしを実現するブランドビジョン「SLOW & SMART」を具現化する新たな「暮らし」にまつわる“価値”を発信してまいります。

※ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン 代表：金井真介氏 所在地：東京都渋谷区

- 様々なステークホルダーと新たな住文化を共創するオープンイノベーション拠点
- 生活者が「感性を磨き」「私らしさを発見できる」仕掛けが満載の情報発信・研究開発拠点
- 関西初の長期開催となるDIDとの共創プログラム「対話のある家」で新たな“気付き”が見つかる
- ブランドビジョン「SLOW & SMART」に基づく、新たな暮らしを発信



## ■「住ムフムラボ」が目指す「共創」とは

核家族や都市生活、共働きの家庭の増加、高齢化、暮らしのIT化、便利家電の普及、社会の24時間化等を背景に、住まいと暮らし方に対する一人ひとりの価値観や生活習慣はこの10～20年で激変しています。

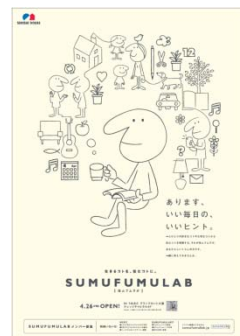
そうした中で、家族のつながり方、子育てのスタイル、シニアライフの姿、家での仕事の姿、さらには食事、家事、くつろぎ、学び、趣味から、ひいては洗面、入浴まで私たちの生活動作、作法は大きく変化しています。

誰しも、どこかに住んでいる「生活者」であり、私たちにとって「住むコト」は365日のテーマなのです。しかしながら、私たちはファッションや道具へのこだわりを比べて、一番の基本である「住まい」、そして「住むコト」への自己のこだわりを実現できずにいるのではないのでしょうか。ともすると、与えられた住まいの形に自分を合わせることで、窮屈でストレスの多い暮らしを強いられているのではないのでしょうか。

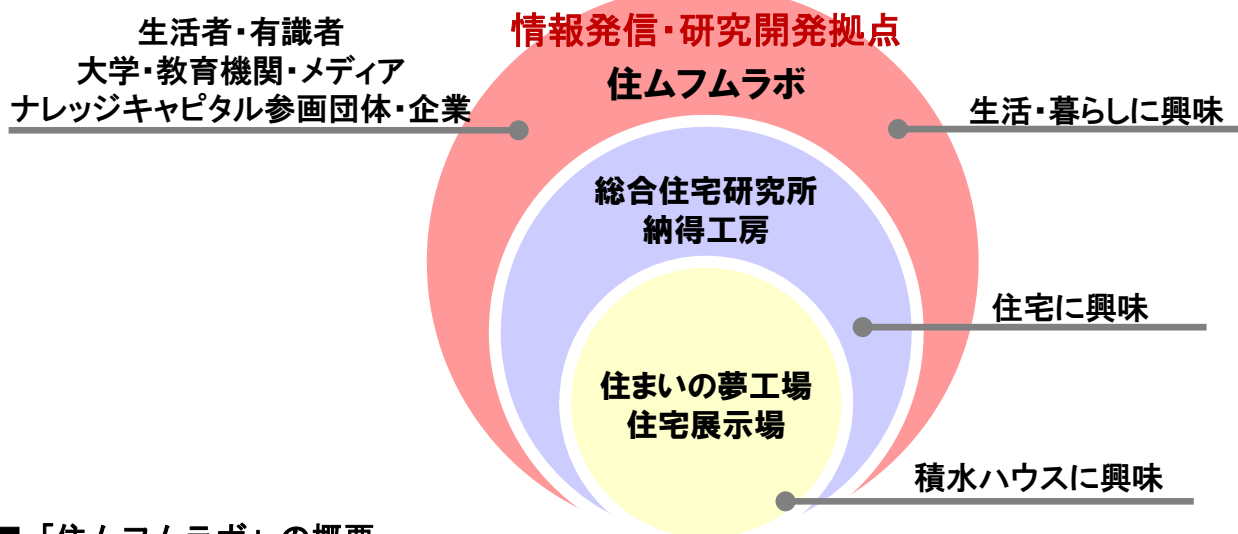
積水ハウスは、それが豊かな暮らしの実現を妨げているのではないかと考えました。もちろん、便利で合理的な暮らしをそのまま追認することが良いわけではありません。本当の豊かさ、快適さ、そして家族の人生、絆、成長、物語の場としてのこれからの住まいの「作法」を生活者の皆様と発見していきたいと考えます。そこに、これまでの研究で培ってきた科学的裏づけを盛り込み、快適さや暮らしの豊かさを解き明かしていきます。それが積水ハウスの考える「共創」です。

生きるコトを、住むコトに。  
**SUMUFUMULAB**  
 [住ムフムラボ]  
 SEKISUI HOUSE

住むコトを調べて、知って、体験して、  
 「フムフム」と納得して頂く施設。



## ■ 積水ハウスの公開施設における「住ムフムラボ」の位置付け



## ■「住ムフムラボ」の概要

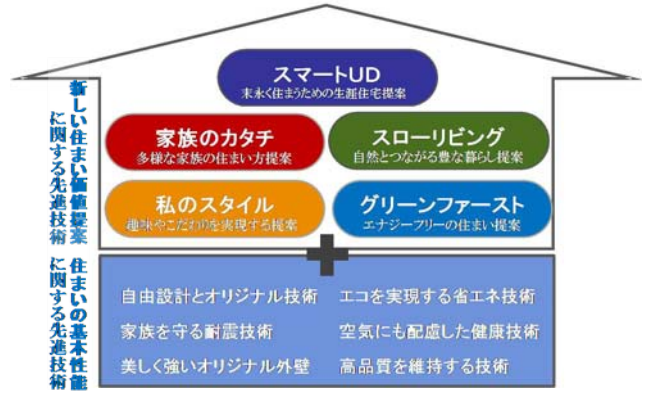
施設名称	: SUMUFUMULAB (住ムフムラボ)
出展場所	: うめきた「グランフロント大阪」ナレッジキャピタル4階 (フューチャーライフショールーム内)
出展規模	: 約660㎡ (200坪)
開設予定	: 2013年4月26日(金)
テーマ	: 「生きるコトを、住むコトに。」
展示内容	: 「家族のカタチ」「いごこちのカタチ」「生きかたのカタチ」の3つのゾーン 3つの空間展示+15テーマの壁面展示
イベント開催	: 「安全・安心」「健康」「子育て・子育て」等のテーマごとに定期的に開催 (ナレッジキャピタル全体と連携したイベントも開催予定)
ご案内の方法	: 案内スタッフとコンシェルジュによるご案内 タブレット端末を用いた案内システム
来場想定	: 年間15万人
入場	: 自由/無料 (一部プログラムは予約制・有料)

## ■ 「住ムフムラボ」の全体構成

「住ムフムラボ」では、「家族のカタチ」、「いごこちのカタチ」、「生きかたのカタチ」の3つのゾーンと関西初の長期開催となる「ダイアログ・イン・ザ・ダーク (DID)」との共創プログラム「対話のある家」を舞台に様々なステークホルダーと新たな住文化を共創します。

# SLOW & SMART

ゆっくり生きてゆく、住まいの先進技術。



### ●「家族のカタチ」ゾーン

家族の形態が多様化している昨今において、誰とどのように暮らしたいかを考えることは、住まいづくりを考える上で非常に重要です。

### ●「いごこちのカタチ」ゾーン

楽しく豊かに暮らすためには、住まいという器の基本性能がしっかりしており、快適で安全安心に暮らせることが必要不可欠です。超高齢社会を迎えた現代においては、常に健康であることも大切です。このゾーンでは、快適な暮らしを支える健康・環境・ユニバーサルデザイン・安全・安心などの技術について発信していきます。

### ●「生きかたのカタチ」ゾーン

誰も「生きがい」のある暮らしをしたいものです。どうすれば生きがいを得られるのか？自分らしい「生きかた」のために住まいで出来ることは何か？このゾーンでは、自分の暮らしを楽しく豊かにしていくための要素について考えていきます。

### ●DIDとの共創プログラム「対話のある家」(参考資料参照)



## 共創効果

#### ■来場者・共創パートナー

- ・図書館やカフェに行くような感覚で「感性を磨ける」
- ・「暮らしのアイデア」「私らしさ」など新たな発見がある
- ・「共創」に参加し、これからの暮らしをつくる

#### ■積水ハウス

- ・生活者の声やデータをとらえ、R&Dに活かす
- ・生活者、ナレッジの他の研究者などとの「共創」
- ・企業の社会的価値の向上(ファンづくり)

### 様々な情報発信

#### 施設やWebからの情報発信 生活者による情報ストック



#### 生活者など様々な方との セミナー・ワークショップ



#### メディア等様々な方面への 情報発信



上記の他、ナレッジ  
キャピタル全体と連携  
したイベントの開催も  
予定しています。

## ■ 3つのゾーンでの展示内容

3つのゾーンごとに、空間展示と壁面を使った展示を行います。

### 住ムフムBOX

- 3つの実大空間。
- 住空間を体験。

#### 家族のカタチ

オープン当初は、「子育て・子育て」をテーマにした空間展示を行い、当社「キッズでざいん」を実大空間で体験して頂きます。

#### いここのカタチ

オープン当初は、当社が「スローリビング」等で提案する住まいにおける、様々な五感による“快適”を感じて頂きます。

#### 生きかたのカタチ

オープン当初は、「シニア世代の暮らし方」について、実大空間を使って提案を行います。

### 住ムフムWall

- 壁面を利用した15のテーマ。
- 様々な情報、アイテム、要素技術を表示。

「n世帯家族の暮らし」「子育て家族の暮らし」「ペットとの暮らし」など、5つのテーマに関する展示を行います。

「快適な暮らし」「安全安心な暮らし」「住まいの健康」など、5つのテーマに関する展示を行います。

「趣味を楽しむ暮らし」「緑のある暮らし」「食を楽しむ暮らし」など、5つのテーマに関する展示を行います。

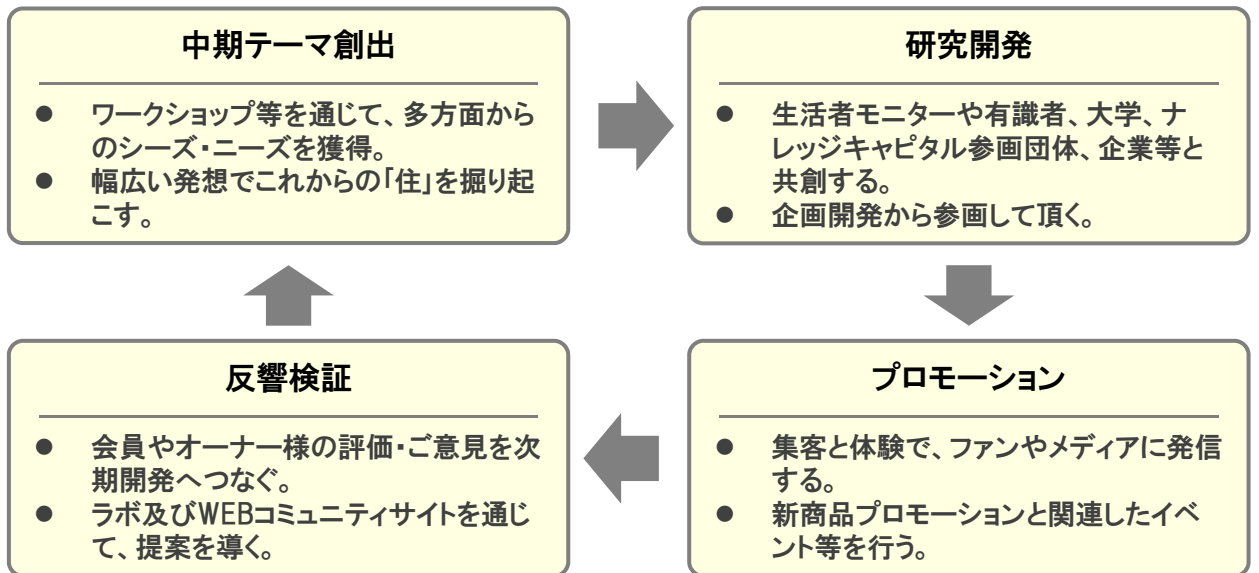


家族のカタチの空間展示<例>



壁面展示で行うテーマ<例>

## ■ 「住ムフムラボ」での共創のPDCAサイクル



## 【参考資料】「対話のある家」について

### ■ダイアログ・イン・ザ・ダーク (DID) とは <http://www.dialoginthedark.com/>

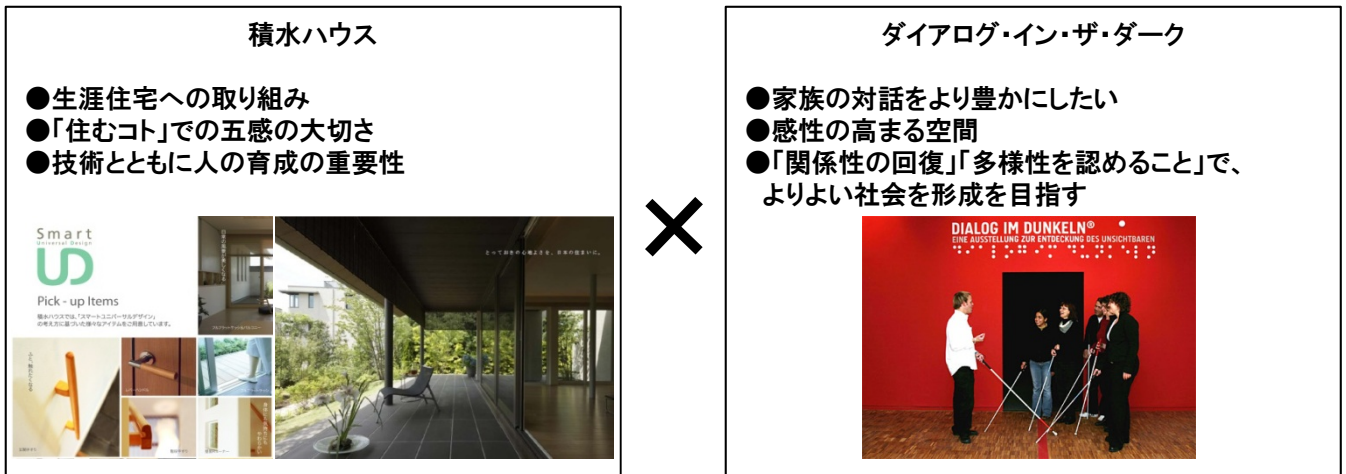
1988年にドイツで、哲学博士アンドレアス・ハイネッケの発案により誕生。世界30カ国・約130都市で開催され、2011年現在で700万人以上が体験した“イベント”です。

参加者は完全に光を遮断した空間へ、グループで入り、暗闇のエキスパートであるアテンド（視覚障がい者）のサポートのもと、中を探検し、様々なシーンを体験します。その過程で視覚以外の様々な感覚の可能性と心地良さに気づき、そしてコミュニケーションの大切さ、人の温かさを思い出すことが出来る施設です。

東京・神宮前では長期開催されていますが、関西では初の長期開催です（プログラムは異なります）。

### ■積水ハウスとの「共創」

積水ハウスは「生涯住宅」思想のもと、長年にわたり「スマートユニバーサルデザイン（スマートUD）」などの研究活動を続けてまいりました。その一環として、「感じる力」「関係性の回復」「多様性を認める」を目的に、対話する場を提供し続けるDIDとともに、「住まいの快適性の深化」を研究し、コミュニケーション、チームビルディング、リーダーシップの養成を目的とした研修、さらには来館者に感性を高め、五感を再認識していただく施設として展開していく予定です（有料・予約制）。



## 共創プログラム「対話のある家」



## ご参考：ナレッジキャピタルについて

### 【ナレッジキャピタルについて】

ナレッジキャピタルは、「感性」と「技術」の融合により「新たな価値」を創出する複合施設として、多様な人々の交わりから、今までにない商品やサービスを生み出すことをめざします。一般社団法人ナレッジキャピタルならびに株式会社KMOがナレッジキャピタルの企画運営を担い、場〔施設〕と機能〔人的支援〕を活用させ、ナレッジキャピタルにおける産業創出、文化発信、国際交流、人材育成の実現を行います。

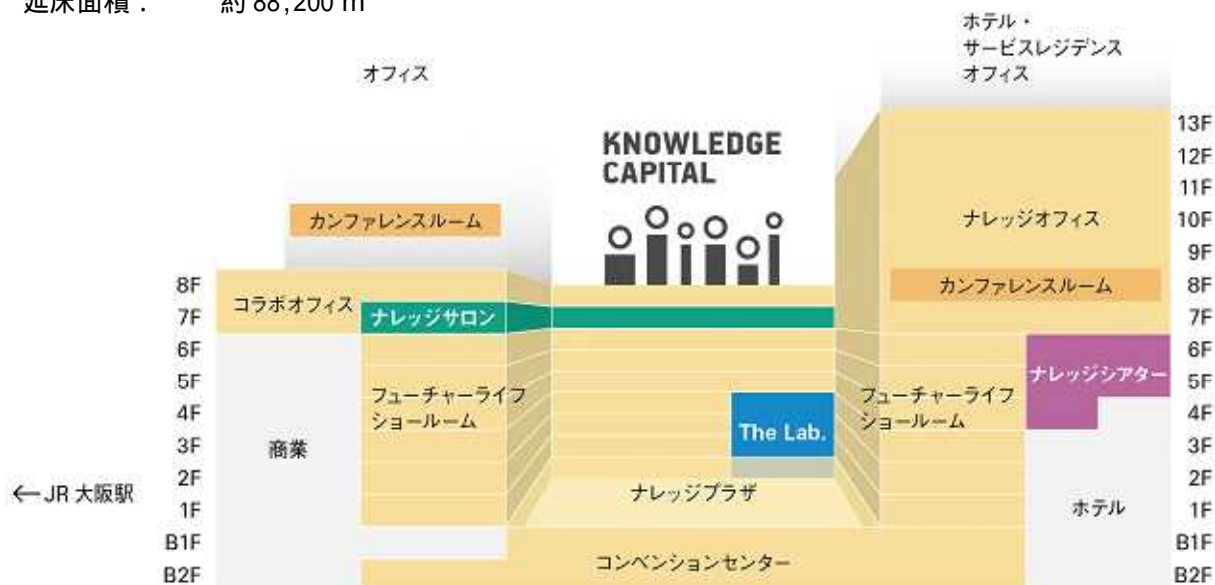
**KNOWLEDGE  
CAPITAL**



ナレッジキャピタルロゴマーク

### 【ナレッジキャピタル施設概要】

名称： 「ナレッジキャピタル」  
 開業日： 2013年4月26日  
 所在地： 大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪 ナレッジキャピタル  
 北館 地下2階～地上8階（タワーB） / ～地上13階（タワーC）  
 延床面積： 約88,200㎡



コラボオフィス・ナレッジオフィス



ナレッジサロン



ナレッジシアター



未来ライフショールーム



The Lab. みんなで世界一研究所



コンベンションセンター

【うめきた先行開発区域プロジェクト「グランフロント大阪」概要】



全景パース



ナレッジプラザ



うめきた広場

梅田貨物駅を中心とする約24haの「うめきた」（都市再生緊急整備地域内）において、2005年6月に先行開発区域（約7ha）としてUR都市機構が「大阪駅北大深東地区土地区画整理事業」に着手、地権者であるUR都市機構と鉄道・運輸機構が開発事業者を募集。2006年5月、11月に開発事業予定者が決定され、2007年6月に土地の引き渡しが完了。2008年2月に「都市再生特別地区」として都市計画決定。2010年3月に新築工事着工。2013年3月竣工、4月26日開業予定。オフィス、商業、ホテル・サービスレジデンス、分譲住宅、ナレッジキャピタルにて構成。



ロケーションマップ